

新しい日本分析化学会に向けて



川 畑 明

世の中の仕組みや組織は、最適なものはなにか、その時代にあったものはなにかを求めて、常に移り変わっていくものである。民間会社はもちろんのこと、近年は公的機関、大学などにもいろいろな変革が進められてきている。日本分析化学会においても現状を踏まえ将来を見て、よりよい方向に変わっていくべきであろう。

本会自体は会員諸氏のご努力のおかげで、現在のところ順調な活動が行われている。しかし会員の減少傾向は止まらず、今後どのように魅力ある学会としていくか、社会にどう貢献しその存在意義を高めていくかなど、今後の課題が数多くあるのが現状である。

このような状況のもと、将来に向けてより活力のある学会をめざし社会要請に^{こた}えるため、組織のあり方と会長をはじめ理事任期・選出方法について検討が行われてきた。具体的な実行案の検討を行う組織検討ワーキンググループも作られ議論も進められた。この結果、今年から次のようにとり進めることとなった。

まず組織の面でみると、現在は本会には多くの委員会があり、活発な活動が行われている。しかし、日本分析化学会全体としてきっちりとまとめ、共通的な議論をして、将来に向けてどのように発展していくのかを検討する場が少ないのが現状である。そこで今後は、四つの協議会を作り、その中に現状の各委員会がそれぞれ入り、各協議会で委員会の連携やあり方など十分な検討が行われることとなった。

また学会としては組織として将来に向けての中長期的な計画が必要である。もちろん計画自体はその都度見直して修正していくべきものではあるが、その時点での大きな構想や将来の計画を持ち、そのもとで具体的な日本分析化学会の運営が行われていくべきであろう。このために企画運営会議と将来構想検討委員会が設置されることになった。この中で中長期計画など学会の大きな方向も議論されることになる。

次に会長など理事任期とその選出については、選挙方法についてはこれからさらに具体案は議論され決められていくが、会長をはじめとした理事任期が将来2年となることが決まり、日本分析化学会として短期的な対応ではなく、じっくりと各種の施策を実行していくことが可能となった。

これから本会は組織の面でそして運営の面で、大きな変革を迎えるわけであるが、会員間の意思の疎通を充分によくして、みんなの力で日本分析化学会がさらに力強く発展できればと期待している。

〔Akira KAWABATA, 榊三菱化学科学技術研究センター, 日本分析化学会監事〕